

あ と が き

◆『アジア・キリスト教・多元性』第8号をお届けいたします。

本研究雑誌は、「日本・アジアのキリスト教と宗教的多元性」研究会（略称、「アジアと多元性」研究会）の研究活動報告論文集として刊行され、本号で8号を迎えることができました。8年の間、継続的に雑誌が刊行できたことについて、今回論文を執筆いただいた方々、またほかの研究会メンバーの方々に、この場を借りて、お礼を申し上げたいと思います。すでにご存じのように、本研究論文集は創刊号より、基本的に電子ジャーナルとして刊行され——必要部数に限り、冊子体での刊行も行っていますが——、現在は、研究会のホームページにおいて公開されるとともに、2008年度からは、京都大学学術情報リポジトリにも、登録されています。

◆2009年度の研究会の活動の詳細については、本号の「研究会の活動内容（2009年度）」あるいは研究会のホームページに記録された通りですが、特筆すべきは、日本宗教学会第68回学術大会において、本研究会のメンバーを中心としたパネル「キリスト教受容と伝統思想——武士道をめぐって」が企画されたことです。このパネルの内容（4人のパネリストの発表とコメンテータのコメント）は、本論文集に特集として収録されていますので、ぜひご覧ください。以上のように、2009年度も個人研究と共同研究の双方において、充実した研究会活動を進めることができましたが、今後は、こうした研究会を一層充実させながら継続するとともに、数年後をめどに、この間の研究会の研究成果を論文集という形にまとめて出版したいと考えています。

◆この場を借りて報告したいもう一つのニュースは、このたび研究会所属の二人の方が博士論文を提出し、めでたく博士号を授与されたことです。岩野祐介氏は、京都大学大学院文学研究科に提出の博士学位申請論文「無教会としての教会—内村鑑三における個人の信仰と社会性との関連について—」によって、京都大学博士（文学）の学位を所得され、また、徐亦猛氏は関西学院大学大学院神学研究科に提出の博士学位申請論文「中国におけるキリスト教本色化（土着化）運動—1920年代を中心に—」によって、神学博士（関西学院大学）の学位を取得されました。両氏の学位論文はともに、本研究会での研究発表や『アジア・キリスト教・多元性』掲載の論文が基礎になったものであり、研究会として、両氏の学位取得をお喜びするとともに、今後の研究の発展に期待いたしております。

◆最近の研究会の動向として目立つのは、海外からの留学生の参加が増えているということです。元々当研究会には少なからぬ留学生が参加しておりましたが、最近その傾向はさらに顕著になってきており、研究会の趣旨から喜ばしく思うだけでなく、こうした特性を生かした研究会・共同研究のあり方についても積極的に検討して行く必要があると考えています。

◆本研究会は、2010年度も、「東アジアのキリスト教」についての歴史的思想史的観点からの研究と、「宗教的多元性」についての理論的な研究とを軸にしつつ、多様な問題連関を結びつけながら、共同研究を進めてゆく予定です。アジアと日本のキリスト教、宗教的多元性といったテーマに関心のある方は、ぜひわたしたちの研究会にご参加ください。

◆今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力を賜りますよう、よろしく、お願い申し上げます。

2010年3月

研究会代表 芦名定道